

立命館大学災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第19号】 2013年7月31日発行

2013年度

夏期休暇復興支援ボランティア

学生派遣の実施について

関西での震災報道は少なくなっていますが、東北の被災した地域では、ひきつづき大学生ボランティアが求められています。立命館大学では今年度の夏期休暇中も、東北の被災地域に赴く様々な活動が実施される予定です。

災害復興支援室ホームページと facebook では、これらの企画以外にも夏休みに参加できるさまざまなプログラムの情報を随時公開しています。

立命館高校生徒会執行部・震災復興支援プロジェクト

期間：7月30日（火）～8月1日（木）
人数：生徒6名 引率2名
場所：宮城県石巻市
内容：在宅避難者との懇談、関係者訪問
主催：立命館中学・高等学校

立命館大学キャンパスアジア・プログラム

東北視察・研修

期間：7月31日（水）～8月4日（日）
人数：学生26名 引率3名
場所：宮城県石巻市、南三陸町、岩手県大船渡市
内容：今年度キャンパスアジア・プログラムで学ぶ日・韓・中の学生たちが、東日本大震災と日本社会の復興について学ぶ現地研修と、地域の方々との交流を実施。
主催：文学部キャンパスアジア事務局

大船渡夏まつり・盛町七夕まつり

サポートプロジェクト

期間：8月2日（金）～8日（木）6泊7日
人数：学生23名/引率教職員3名
場所：岩手県大船渡市
内容：大船渡市で開催されるお祭りの運営サポート、盆おどりへ参加、被災地域の視察、支援に取り組む大学生等との交流を実施。
主催：学生オフィス



淡江大学・立命館大学 学生交流フォーラム～TRACE 2013～ in 東北

期間：8月3日（土）～8月12日（月）
人数：学生16名/引率教職員3名
場所：宮城県仙台市、気仙沼市、岩手県宮古市、大船渡市
内容：立命館大学と台湾・淡江大学の学生が共に行動・宿泊しながら、東北の被災地や復興・防災に関する研修と、被災した地域でのフィールドワーク、地域住民との交流、東北の大学生を交えたクロージングディスカッションを実施。
主催：災害復興支援室

立命館大学 R7 - 笑顔を咲かせよう

Rits×MIYAKO 応援プロジェクト 2013

期間：8月4日（日）～8月12日（月）
人数：学生15名程度
場所：岩手県宮古市内
内容：被災された方々やコミュニティの空間での交流企画の開催、子供たちとの交流および学習相談、津波被害の視察を実施。
主催：立命館大学 R7

東北学院大学災害ボランティアステーション

「夏期集中ボランティア」

（1）気仙沼市・唐桑町プロジェクト
期間：8月5日（月）～9月13日（金）
4泊5日1クールとして6クール
人数：各期間5人まで
場所：宮城県気仙沼市唐桑地区 他
内容：津波を受けた古道・遊歩道を復元、海岸や側溝の清掃、漁業支援、お祭の支援など

（2）山元町プロジェクト
「山元町災害ボランティア活動」
期間：8月10日（土）～12日（月）
8月23日（金）～25日（日）
人数：各期間5人まで
場所：宮城県亘理郡山元町 他
内容：畑の土中に在るガレキやごみの撤去、ビニールハウス設営の手伝い、被災した家屋内外の片付け、花壇造り等
主催：サービスラーニングセンター

災害復興支援室 後方支援スタッフ派遣プロジェクト 第20便（宮古・鉾が崎）

期間：9月1日（日）-9月10日（火）予定
人数：学生 最大10名
場所：岩手県宮古市鉾が崎地区
内容：震災により失われた街並みや環境を模型で復元、住民の方々と共同で模型に着色しながら対話・交流を実施し、街とコミュニティの再生を応援。
主催：災害復興支援室

いわて GINGA-NET「夏銀河 2013」

期間：9月3日（火）～10日（火）
人数：学生25名/引率教員1名（予定）
場所：岩手県沿岸部
内容：応急仮設住宅でのお茶っこサロン、応急仮設住宅での子どもの居場所支援、学習支援、学校等での学習支援その他、イベント支援漁業支援などを実施。
主催：サービスラーニングセンター

立命館大学で「インドネシア

政府防災研修(第3期)」を実施

6月24日（月）～7月7日（日）まで、立命館大学のキャンパスや東日本大震災の被災地である岩手県、東京都で、「インドネシア政府防災研修（第3期）」が実施されました。本研修はインドネシア国家開発企画庁（BAPPENAS）からの要請に基づき、JICA 円借款を活用し、2011年から毎年1回行われているもので、立命館としてこれまでも50名の研修員が、そして今回も行政官・大学教員25名を受け入れました。

▼キャンパスでの研修の様子



6月25日（火）の開講式は衣笠キャンパス創思館カンファレンスにて執り行われ、小木裕文副総長による開講挨拶、服部健二副理事長による立命館災害復興支援室の活動紹介に続き、研修団団長で、国家開発企画庁のメイリー・ジョハール氏による研修に対する意気込みのスピーチがありました。

▼被災地域の視察（岩手県宮古市田老）



7月1日（月）～3日（水）には岩手県遠野市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市を訪問し、市長や復興担当行政官による講演や意見交換が行われたり、また7月2日（火）に訪問した岩手県宮古市では立命館大学理工学部宗本晋作准教授がゼミ生と建設した簡易集会所（ODENSE2号）を

見学し、民生委員や地元商店の方から、区画整備計画や防災の取り組みなどのお話を伺ったりしました。

今回の研修に参加した北スラウェシ地方開発企画局のエルピラ・メルシー・カトゥーク氏からは「研修を通じてコミュニティを巻き込み、その街に住む人々が防災計画へ関与することの重要性を学びました。帰国後は住民への啓蒙活動を行い、住みやすい街づくりを進めたいと思います。」とコメントいただいています。研修団は7月6日（土）東京キャンパスにて報告会を開催、翌7日に帰国しました。研修員は今後、日本で学んだことを各分野でインドネシア国内における防災政策の強化に励みます。

【報告】2013年度研究推進プログラム

（基盤研究・災害研究枠）採択結果

立命館では、震災復興に寄与する研究活動を支援する「東日本大震災に関する研究推進プログラム」2011年・2012年度実施し、今年度は立命館大学研究推進高度化推進制度の研究推進プログラム(基盤研究)「災害研究枠」を設定、申請の募集を行いました。採択結果は下記のとおり。詳細は研究部ホームページでご覧いただけます。

【人文社会科学系】採択件数13 / 申請件数25	
研究代表者	研究課題
政策 桜井政成 准教授	コミュニティ復興における応急仮設住宅団地の自治会が果たす役割
政策 豊田祐輔 准教授	住民の大学依存回避に着目した大学・地域間防災連携フレームワーク構築による地域防災力向上に関する研究
政策 孫京美 助教	行政による震災復興計画の推進のための基盤となる住民意識の研究
共通教育推進機構 山口洋典 准教授	インター・コミュニティ・デザインとしての災害復興支援に関する実践的研究
経済 宮本十至子 教授	災害リスクと税制・財政の諸問題に関する研究
文 河角龍典 准教授	先史・歴史時代における京都・平安京の洪水履歴の解明とハザードマップへの活用
産業社会 石倉康次 教授	事例研究による、放射線被害を含む東日本大震災による影響を想定した福祉労働実践と、新たな支援基準の提案—宮城県、福島県の福祉労働者の果たした役割に関する追跡調査—
産業社会 日高勝之 教授	東日本大震災後の「災害文化」の生成とありようの検証とその社会的活用
政策 鐘ヶ江秀彦 教授	エージェンツシステムを用いた住民主体のリスクコミュニケーション支援ツールの開発と活用
政策 森裕之 教授	大規模災害におけるアスベスト対策の政策科学
文 佐藤達哉 教授	震災復興に関する情報の応用社会心理学—風評被害の実態と理論—

これからの主な取り組み

○7/31（水）～8/4（日）立命館大学キャンパスアジア・プログラム東北視察・研修
○8/2（金）～8/8（木）大船渡夏まつり・盛町七夕まつりサポートプロジェクト
○8/3（日）～8/12（月）淡江・立命館 学生交流フォーラム～TRACE2013～ in 東北
○8/4（日）～8/12（月）立命館大学 R7 - 笑顔を咲かせよう Rits×MIYAKO 応援プロジェクト 2013
○9/1（日）～9/10（火）災害復興支援室後方支援スタッフ派遣第20便(宮古鉾が崎)
○9/3（火）～9/10（火）いわて GINGA-NET「夏銀河 2013」
<それぞれの取り組みの詳細については、今後 HP や瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生2011年4月21日に「立命館災害復興支援室」を設置し、被災地域の大学からの支援要請など緊急的・総合的に判断・対応を行なう窓口として活動を開始しました。現在は、学生の支援ボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートを行なうとともに、ひきつづき学内外の情報発信と支援ニーズ・シーズの整理・具体化に関する調整を行なっています。

応用人間	村本邦子 教授	災害がコミュニティに与える影響、トラウマとレジリエンス、および対人援助学的支援に関する研究
言語教育	東照二 教授	震災に於ける広報誌の実態と課題：「広報」と「広聴」
【自然科学系】採択件数 9件 / 申請件数 16件		
研究代表者		研究課題
情報理工	仲谷善雄 教授	被災住民間での思い出の共同想起と共有による復興支援枠組みの構築
情報理工	李周浩 教授	空中から回転落下するカメラセンサによる災害地域の画像データ収集と広範囲3次元マップ自動生成
情報理工	西浦敬信 准教授	快音化スピーカを用いた仮設住宅における騒音ストレスの軽減
理工	鈴木健一郎 教授	建造物健全性診断システムのための超高感度を持つ MEMS 慣性センサを利用した無線センサネットワークの研究
理工	玄相興 准教授	油圧源を外部に持つ油圧式歩行ロボットの強不整地作業能力に関するフィージビリティスタディ
理工	宗本晋作 准教授	被災地における住民の記憶や関心に合わせた復興計画の策定方法に関する研究—宮古市鉾ヶ崎まちづくり協議会を対象として—
理工	佐藤圭輔 講師	放射性セシウムによる局所的汚染地域（ホットスポット）の動態調査と将来予測
理工	川崎佑磨 助教	地域交通を支える橋の南海トラフ地震による津波に対する安全性対策に関する研究
理工	藤本将光 助教	基岩内地下水流動を組み込んだ斜面崩壊発生予測モデルの構築

～立命館教職員の皆さまへ～

学生・生徒が取り組む復興支援活動への寄付・協力をお願い

災害復興支援室では現在、立命館教職員の皆さまを対象に、学生・生徒・児童たちによる復興支援活動への支援を目的とした給与引去り寄付のご依頼を実施中です。1千年に一度とも言われる大災害となった東日本大震災の発生を受け、より多くの児童・生徒・学生が復興支援活動に参加し、被災した東北地域の復興に関わる機会を提供するため、皆さまのご支援をお願い致します。

すでに支援の趣旨にご賛同くださった皆さまには、災害復興支援室長よりお礼状を順次送付させていただきます。

■寄付の名称：復興＋R基金「復興活動支援金」
■寄付の使途：立命館学園（大学・APU・各附属校）の生徒・学生が取り組む被災地での復興活動への支援、および海外大学と連携した復興活動の支援
【詳しくはこちら！】
寄付の主旨・申込み方法について
<http://www.ritsumeai.ac.jp/file.jsp?id=94811>

編集後記

夏ですね。3.11 追悼企画「いのちのつどい」のひまわりが咲きました。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第19号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130（総合企画課内）

メール 311fukko@st.ritsumeai.ac.jp

HP <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>

